

## 第1回 ユニバーサルツーリズムの普及・促進に関する検討会 議事概要

日時：平成25年9月18日（水）13:30～15:30

場所：国土交通省3号館4階 特別会議室

出席委員：秋山委員（座長）、大木委員、菊池委員、木村委員、鞍本委員、小関委員、田中委員、  
中村委員、長谷川委員、平森委員、湊山委員

議題：調査事業趣旨説明、地域の受け入れ態勢の強化について

概要：検討会で委員から出された主な意見は以下の通り。

### （1）調査事業趣旨（本年度の事業内容）について

- ユニバーサルツーリズムは、全ての障がい者が対象だということを明確した方が良い。あらゆる障害がある中で、障がい者自身が自分も対象であることを理解できるようにすることが大切である。
- 旅行において移送サービスは重要なポイントとなるため、ユニバーサルツーリズムの普及・促進にあたっては、移送サービスおよび交通機関との連携に関する検討も必要である。
- 本年度の取組みの軸として、旅行者への情報の「見える化」を図る必要があると考えている。施設側からの情報提供の基準を明確に出来ればと思う。
- 福祉輸送協会や介護タクシー、福祉タクシー等に関しては、ドライバーが介助を行うことができる仕組みを推進できると良い。
- 旅行事業者が積極的に参画するためには、参画にあたり必要となる基準を明確にしていくことも必要である。
- ユニバーサルツーリズムの更なる普及・促進に向け、地方運輸局単位の小規模なシンポジウムの開催が効果的ではないか。如何に地域に対して問題提起をできるかが、今後の普及・促進に向けた課題である。
- 重度障害をお持ちの方の旅費が高額となる現状の中で、金銭的な援助を含めた支援の観点からユニバーサルツーリズムの普及・促進を検討した方が良い。
- 旅行による効用を数値的に検証出来ないか。ユニバーサルツーリズムの取組みが介護予防につながるということ等を示す数値的な根拠が必要である。

### （2）地域の受入体制の強化について

- 公募による対象地域の選定にあたっては、実際に拠点づくりを経験し、その要点を把握している専門家の知見が必要である。経験に基づく、実績や知見を是非活用してほしい。
- 公募においては、対外的に公平性を十分に確保するとともに、専門家の知見を十分に活かすことができるよう、ユニバーサルツーリズムに関する地域拠点づくりの知見を有する方にアドバイザーまたはオブザーバーとして参画していただくことを検討する。
- 地域を強化し、その土地で支援を行うことができる地域が拠点となる。観光は福祉ではなく、

拠点とはどうあるべきかという視点で検討をしていくことが大切である。

- 受入拠点において重要な点は、旅行時に必要な情報をお客さまに提供できるコーディネーターの存在である。ただし、一人のコーディネーターでは、多くのニーズに対応出来ないため、ある程度の人数は必要である。

以上